

教育広報

南 会

編集・発行 福島県教育庁南会津教育事務所
 発行責任者 佐藤 智晃
 編集協力 市町村教委連絡協議会南会津支会
 南会津郡小中学校長協議会



『 (+) + (-) = (+) に 』

南会津教育事務所長

佐藤 智晃

4月に南会津に赴任して早々に各町村を訪問し、まだ雪が残る道すがら感動的な「春」の南会津の風景を目にしました。カーブを曲がり、目に飛び込んできたのは「川」です。広大な南会津の山々の雪解けの水を集めた川は、流れも速く、荒々しくまさに「激流」でした。私が感動したのはその流れには濁りがなく青々とした澄んだ流れであることです。阿賀川、伊南川、荒海川、只見川。どの川も景色が素晴らしく、まだ残る雪とマッチした早春の南会津の自然の雄大さを感じました。

ことのほか感動したことを地元の方に話したところ、あまりピンとこない様子。もしかしてこれは日常の風景だからなのでしょうか。私には本当にきれいな「青」がまだまだ鮮明に記憶に残っています。GWにまた車で走ってみて、今度は新緑と川の景色にまた感動しました。

まだ、南会津の雪を体験していない私だから、のんきな感想を持っているだけなのかもしれません。それでもあの光景はずっと脳裏に残る素晴らしいものであることには変わりありません。

赴任して3か月で「自然」、「人」、「食」、「酒」たくさんの南会津のよさを感じることができました。

南会津教育事務所では「自立と共生」をキーワードと

して、南会津のよさを生かした「自ら学ぶ子供の育成」を目標として教育行政業務を進めています。改めて考えたとき、「南会津のよさ」とは何でしょうか。

各校を訪問し、授業や子供たちの活動の様子を参観させていただきました。子どもたちが生き生きと活動している様子が見られ、日々の先生方の努力に感謝です。しかし、どの学校も児童生徒数の減少により、単学級数が減り、複式学級が増加している現状があり、その対応に苦慮している様子もわかりました。南会津教育事務所では、少人数、複式学級のよさを生かした授業改善が進むことを目標としています。極少数と複式学級のマイナス面を上回るプラス面を生かし、ICTの活用を加え、個別最適な学び、対話的な学びの実現ができないか、先生方と一緒に考えていきたいと思えます。

どんな事柄にもどんな状況にもプラス面とマイナス面はあります。(+) + (-) = (+)となるためには、プラス面が大きくならなければなりません。

『学びの変革』授業デザインでは「観」を見つめなおすことを提案しています。学校の強みや「観」の転換で各校の授業や教育活動がよりよいものになっていくことを期待しています。



『コンビニはないけど、理想の教育のある南会津』

郡小中学校長協議会長

栗木 孝直

他管から南会津にきた校長先生の一言。「週末は警察署や商業施設に伺い、子供が迷惑をかけていないか確認していた。『今週はいない』の言葉にホッと帰宅していた。」生徒指導に忙殺され、教材研究の時間も少なく、授業の土台である学習訓練もままならない状況が想像されました。

南会津のよさとして「自然が豊か」があげられますが「子供たちの素直さ」「協力的な保護者・地域」による生徒指導等の時間が少ないこともよさとしてあげられます。一方、地元教員が少ない等人材不足が課題となっています。

そこで、今年度郡校長会では、南会津のよさをもとに、人材育成、特に若手の育成を小中学校で取り組んでいきたいと考え、「研修機会の確保」「南会津で勤務することのよさを意識させる」など、校長会として組織的に取り組んでいくことを確認しました。そのために各校長が今まで指導に活用してきた資料等を校長間で共有し、研修に役立てて

いくこととしました。これらの取組の結果、ここ南会津で力をつけた教員が他管に異動し、その力を発揮することで南会津のよさを後輩にアピールしてくれるでしょう。その後輩の中から南会津での勤務を希望する教員ができれば、課題である人材確保にもつながると考えています。そして、南会津のよさに惚れた教員が南会津での教員生活を続ければ、南会津の人口増につながり、南会津の人に惚れた人が南会津の人と一緒になれば、より人口を増やすことにつながる可能性も見えてきます。この効果は複数年かかります。送り出す学校・受け入れる学校の両方が同じ思いで取り組んでいかなければならず、今まで以上に校長会が組織的に機能していかなければなりません。

「コンビニは少ないけど、理想の教育ができる南会津」をもとに、人材確保を要望し待つだけの校長会ではなく、南会津を売り込める人材を育てる校長会でありたいです。